一般演題　(20)

血液透析患者の動脈硬化とケモカイン・接着分子の臨床的意義

渡辺内科クリニック　○渡辺幸康　斉藤浩次　小林文世

【はじめに】動脈硬化を慢性炎症ととらえた場合、単球に対する走化因子であるMCP-1 などのケモカイン、血管内皮細胞への白血球の接着に関与する VCAM-1, ICAM-1 などの接着分子は動脈硬化の進展に大きな役割を演じている。今回われわれは血液透析患者において、これらケモカイン・接着分子の動脈硬化マーカーとの臨床的関連性について検討した。

【対象および方法】血液透析患者(HD 群)：85 例、非血液透析患者(non HD 群)：54 例について頚動脈エコー・ABI フォルム等を施行し、CRP を含む一般血液・生化学検査、ELISA 法で血清 MCP-1, VCAM-1, ICAM-1 濃度を測定し、これら血清マーカーと動脈硬化性疾患・動脈硬化マーカーとの関連性について検討した。

【結果】HD 群は non HD 群にくらべて、血中 MCP-1, sVCAM-1 濃度は高値を示し、HD 群では虚血性心疾患(IHD)合併群と脳血管性疾患(CVD)合併群において、sVCAM-1 濃度が高値を示した。また、HD 群で logCRP は baPWV と正の相関を示し、MCP-1 は Cr と正の相関を示した。クレアチニン補正をした MCP-1/Cr と baPWV は正の相関を示し、MCP-1 と透析期間は正の相関を示した。

【結論】非血液透析患者にくらべて、血液透析患者ではケモカイン・接着分子は高値を示し、動脈硬化の進展度と炎症反応・ケモカイン・接着分子とは何らかの関連性が認められることが判明した。